



9月26日、「郷土かがわを戦場にするな!」県民連絡会は、高松サンポート岸壁にて、護衛艦「いなづま」の高松港、入港反対!抗議行動を行いました。

2024年3月末、池田豊人香川県知事は県議会にもはからずに、国による高松港の「特定利用港湾」指定を受け入れました。それ以降、ひんぱんに海上自衛隊の艦船が高松港に入港し

一般公開されています。「有事」にそなえて高松港での演習であり、市民への浸透を狙つたもの입니다。県民連絡会の共同代表で内科医師の藤原高明氏、県商工団体連合会事務局長の野崎孝司氏、8・15戦争体

19世紀までメインであった國民主権と自由権に加えて、「生存権」をその基本とす「社会権」の概念が成立したことです。その背景には、働く者の要求と運動、そして、第2次世界大戦で民主主義がファシズムに勝利したことがあります。

20世紀の「民主主義」と人権の発展」の最たるものには19世紀までメインであった國民主権と自由権に加えて、「生存権」をその基本とす「社会権」の概念が成立したことです。その背景には、働く者の要求と運動、そして、第2次世界大戦で民主主義がファシズムに勝利したことがあります。

20世紀の「民主主義」と人権の発展」の最たるものには19世紀までメインであった國民主権と自由権に加えて、「生存権」をその基本とす「社会権」の概念が成立したことです。その背景には、働く者の要求と運動、そして、第2次世界大戦で民主主義がファシズムに勝利したことがあります。

ましょい」と呼びかけました。その他に社民党香川県連合の三野ハル子代表、香川平和労組会議の豊田雅人議長がリレートークをしました。



定価 100円
月行所
民主香川社
高松市藤塚町
3丁目13-14
☎(087)834-7311

観音寺市議選が目前 ふじた均市議が応援

観音寺市議選は、市長選挙と同時に（11月9日告示16日投票）でたたかわれ、定数は前回から2減の18となりました。日本共産党からは現職のふじた均（ひとし）議員が再選に挑戦します。

院議員は18日、観音寺市で11月の同市議選の勝利をめざして開かれた決起集会に駆け付けました。

白川氏は先の参院選で自公を衆議院に統いて少數与党に追い込んだ一方極右・排外主義の政党が伸び、「反動ブロック」がつくられる危険が生まれているとし、「国民的な反撃を進めていく。その反撃の第一歩が観音寺市の市議選だ。反撃のトップバッターとして市政に再び送り出してほしい」と呼びかけました。

ふじた氏は「国政、県議だけ。」

中谷浩一県委員長は、ふじた市議の3つの値打ちを報告。第一に、要求を実現する議席だとして、高校卒業までの子どもの

医療費無料化を実現するなど市民の願いの実現に全力をあげてきたので、さらに国保税の値下げ、学校給食費の無償化、補聴器の購入補助をもとめていると紹介。とくに飲み水の危険については、浄水場からPFAS（ピーファス）健康に害を与える物質）が検出されたと県へ調査を要望しました。

第二に、市政をきびしくチエックする議席として、市が、中四国最大の「道の駅」作りをすすめていることに当初から問題ありと提

道の駅は、87億円の税金を投入する予定であり、そのうちの19億円は観音寺市民の税金です。ところが市は、計画の全体像をはつきりと示さず、しかし高松市の栗林公園でさえ年間50万人の利用客を予測。

第三に、国政、県政と結んで平和と子どもを守る議席だとして、戦争する国づくりが香川でもどんづん進められており、子どもの名簿が自衛隊へ勝手に渡されたりしています。これに抗議してがんばっているのはふじた

太鼓台界

暑い高松から逃れて北海道を旅しました。美瑛の就実（しゅうじつ）の丘に行くと遠くの山並み、大きく広がる真っ青な空、その下には広大なパツチワークのような畑が広がる

すことができ、感動しました。看板を観ると、明治33年、香川県から3名がこの地に入植したのが始まりと書いていました。農地を求めて、遠く旭川の地まで何日もかけてたどり着き、生きるために人力で原野の木を切り、根を掘り起こし、開墾した当時の人々の困難は想像を絶するものであったでしょう。

北海道は明治以降、多くの移住者が開墾し、その努力のたまもので住んでいたアイヌの人々のこと

を思わずに入れません。和人たちは強制移住させられたり、伝統的なアイヌ文化の風習の禁止、日本語の習得が勧められるなどの同化政策により、苦しい生活を余儀なくされました。「アイヌ施策推進法」がやっと2019年に施行され、差別禁止が明記されました。

20世紀と云う枠組みで「社会保障」を考える（2）

20世紀の「民主主義」と人権の発展」の最たるものには19世紀までメインであった國民主権と自由権に加えて、「生存権」をその基本とす「社会権」の概念が成立したことです。その背景には、働く者の要求と運動、そして、第2次世界大戦で民主主義がファシズムに勝利したことがあります。

20世紀と云う枠組みで「社会保障」を考える（2）

20世紀の「民主主義」と人権の発展」の最たるものには19世紀までメインであった國民主権と自由権に加えて、「生存権」をその基本とす「社会権」の概念が成立したことです。その背景には、働く者の要求と運動、そして、第2次世界大戦で民主主義がファシズムに勝利したことがあります。

の拡大、米軍をはじめとする他国軍との合同訓練の動きを指摘し「軍事対軍事でこそ、違憲の安保法制の廃止の声を大きく広げていき

た。ましょい」と呼びかけました。

これから社会保障を考える
高齢化、人口減少そして「大軍拡」の流れの中で

20世紀と云う枠組みで「社会保障」を考える（2）

20世紀の「民主主義」と人権の発展」の最たるものには19世紀までメインであった國民主権と自由権に加えて、「生存権」をその基本とす「社会権」の概念が成立したことです。その背景には、働く者の要求と運動、そして、第2次世界大戦で民主主義がファシズムに勝利したことがあります。

20世紀と云う枠組みで「社会保障」を考える（2）

20世紀の「民主主義」と人権の発展」の最たるものには19世紀までメインであった國民主権と自由権に加えて、「生存権」をその基本とす「社会権」の概念が成立したことです。その背景には、働く者の要求と運動、そして、第2次世界大戦で民主主義がファシズムに勝利したことがあります。

の拡大、米軍をはじめとする他国軍との合同訓練の動きを指摘し「軍事対軍事でこそ、違憲の安保法制の廃止の声を大きく広げていき

た。ましょい」と呼びかけました。

これから社会保障を考える
高齢化、人口減少そして「大軍拡」の流れの中で

20世紀と云う枠組みで「社会保障」を考える（2）

20世紀の「民主主義」と人権の発展」の最たるものには19世紀までメインであった國民主権と自由権に加えて、「生存権」をその基本とす「社会権」の概念が成立したことです。その背景には、働く者の要求と運動、そして、第2次世界大戦で民主主義がファシズムに勝利したことがあります。

20世紀と云う枠組みで「社会保障」を考える（2）

20世紀の「民主主義」と人権の発展」の最たるものには19世紀までメインであった國民主権と自由権に加えて、「生存権」をその基本とす「社会権」の概念が成立したことです。その背景には、働く者の要求と運動、そして、第2次世界大戦で民主主義がファシズムに勝利したことがあります。